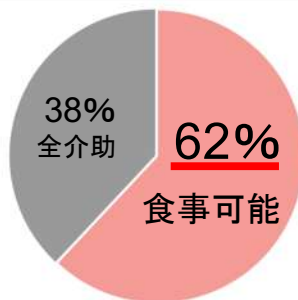


食べこぼしのない世界を目指して



東京会場Cグループ

皆さん、この写真をみてどう思われますか？



脳性麻痺児の62%が自力で食事を食べている

姿勢が傾く



声かけ必要



自分で姿勢を修正できる

自分の姿勢に気づくことで自立を促し、食べこぼしを減らせないか？

既存のソリューション

座位保持装置・椅子



動作による姿勢の崩れは修正が難しい

人的介助



常に人員が必要
自立を促したい

姿勢 uPO【アップ】

正しい姿勢で
食事をしていると、

動画 音楽 その他

姿勢が
崩れてくると、

コンテンツが連動して
停止やモザイク

自分の姿と
正しい位置が表示

Feedback

自分がどういふ状態なのか見る機会がない、
“自分の姿が映って修正できる”というのはいい！



施設のスタッフ

姿勢を意識せずに食べることが多いと思うので、
意識させることは必要かなと思う

本人が、危ない姿勢って気づくのが一番大事で、
倒れそうだと気づくとハッとする



重症児のお母さん

脳性麻痺児のお母さん

長かったらアラームが鳴るとか、第3者もわかる
ような工夫があるといい

声掛けに頼らず、正しい姿勢を教えてくれること
を



継続できることで、効果があるのではと思う

脳性麻痺児のお母さん

施設のスタッフ

既存ソリューションとの比較

姿勢 uPO【アップ】



提案アプリ
自分の姿勢と
適切な位置を表示



座位保持装置・椅子
身体部位の固定



人的介助
声かけ / 手で補助

こぼしを減らす

○
(要確認)

△
(座位姿勢の保持)

○ or △
(こぼした時の拭き取り)

姿勢の“修正”を支援

○

×

○

自分の状態が認識できる

○
(視覚的に)

×

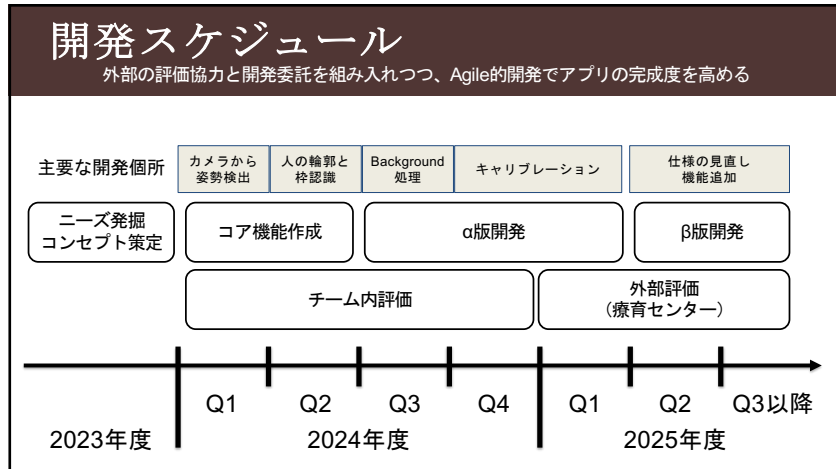
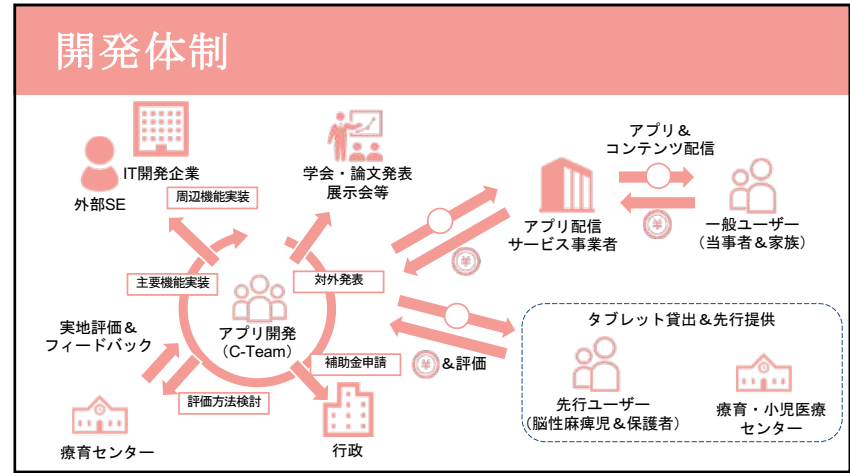
△
(声かけで)

家族が調整可能

○

○

—



TEAM MEMBERS



渡邊大貴
研究管理理学療法士、博士(医学)
治験調整医師のサポート
医工融合研究や大学の非常勤講師として、理学療法評価学や神経系理学療法学を教授



樋口未帆
看護師
呼吸器・腫瘍科・血液内科の患者さんが入院する病棟に所属
以前はCUIに所属



大浦楓子
博士後期課程/
特任研究員
人間工学デザインの分野で共創、UXデザインの実践やデザイン手法を研究



大友高行
フリーランスのエンジニア
ハードウェア、ソフトウェア両方の仕事に携わる

Call To Action ”自分で気づき・直す”機会を！
姿勢チェックで、こぼしをなくそ



一緒にアプリを作ませんか？

Adobe Flash